

技術と思いが支える水道水

多摩市立諏訪中学校

一年一組

西川実花

今年の夏休みに出された社会科の宿題は、私の水への関心を強めた。宿題は、世界百九十ヶ国の中から一ヶ国を自由に選び、その国の衣・食・住を調べてくる事だった。私はガーナ共和国を調べた。小さい頃から伝記を読むのが好きだったので、野口英世が感染症の研究をしていた国をもっと知りたいと思っ

たからだ。

すると、現在も日本とは衛生状態が違う事を知った。日本では、生活用水の入ったタンクがトイレの上に置いてあることは無い。世界下は国や地域によって、まだまだ水が貴重なものだとも改めて実感した。

「水が貴重」という言葉で、私は愛媛県松山市に住む祖父母の話思い出した。幼い私が夏に帰省する時、いつも「水があるか無いか」が問題となっていた。七月までに雨が多

くなならない年は、給水制限が出て、住まいの  
 区域ごとに水の使えない時間帯があるのだ。  
 祖父母は幼い私が水を使えないと不便だろう  
 と毎年気にしてくれていた。確かに、四国・  
 松山は瀬戸内海に面し、中国山地と四国山地  
 に囲まれ雨が少ない。しかし、夏には三十度  
 を超える日が六十日程続く。河川に頼るだけ  
 ではなく、ため池を多く作っているが、それ  
 でも年によっては足りないそうだった。

では、私の住む東京はどうだろうか。毎日  
 水道をひねれば必要な時、必要なだけきれい  
 な水を使える。私が使っている水はどうして  
 こんなにきれいで安全な水なのか。どうして  
 豊富に使えるのだろうか。当たり前だと思っ  
 ていた日常の風景に疑問を感じた瞬間だった。  
 そこでまず、日本の地形から考えてみた。私  
 の印象では、日本は雨が多く、山や川も多い。  
 森林が豊富で水も豊かだ。日本は水の得やす  
 い環境のように思える。しかし、日本の地形  
 は縦長で中央を山地が走る。川は急流で短く

海に流れ出る。国土が狭いので、人口一人当たりが使える水の量は少ない。人口が集中する東京では足りなくても当然なのかもしれない。どうやって東京の水は確保されているのだろうか。それを支えるのはダムである。治水の技術だ。人の技術である。ダムの水も人によって管理され、調整されている。他にも東京はどんな技術で私達を支えているのか調べてみた。水質基準項目(五十一項目)、水質管理目標設定項目(二十七項目)、要検討項目

目(四十五項目)というものが定められている。厳しい水質管理は、私達に水道水への信頼と安心を与えてくれる。そして水道局では「今日の水質」まで細かく調べあげる。私が調べた日には、0.0000以下という基準値となっているものもあった。正確に伝えようという意志や、ここまで正確に管理している能力、日々の努力はとても凄いものである。水道局員の方々による細かく丁寧な検査作業が、私達にきれいで安全な水を届けてい

るのだ。人の思いが水を作っていると感じた。水は日々、人によって守られている。

そうだとするならば、水を使う私達も同じ人として、水を守る義務があるはずだ。水の量は環境によって左右されてしまう限りある資源だからだ。

近年、更なる悪化が叫ばれている地球温暖化により、海水が少しずつ蒸発している。水にとって重要な森林も環境の悪化で減少している。水の循環を少しでも助けてあげたい。

では、私達に何ができるだろうか。水を無駄に使わないよう心がける事は大事である。多くの人が協力すれば、効果はかなりあるはずだ。例えば、シャワーの時間は短くする。水を出したままにはしない。また、水の再利用を考える事も有効な手段である。お風呂の水は再利用ができる。洗濯機を買いなお風呂の水を使うホースがついてくる。利用しない手はない。我が家では、お風呂の水で靴を洗いに、更に残った水でお風呂場の掃除をする。

祖母はお米を研いだ水で花壇の花の水やりをする。栄養たっぷりな水だ。更に自分から使う水を増やす方法もある。雨水を溜める方法だ。庭の草木の水やりにも車の洗車にも使える。普段の生活の中、工夫次第で水を助けることができる。私達の水の使い方次第で、水の運命は変化する。そして、水の大切さを多くの人に伝えることも大事なことだ。全てを人任せにすると、結局、誰も何もしない結果と同じ状態になる。最終的に、汚れた水と水

不足が自分を苦しめることになるのだ。

水道水は、人の努力で支えられている。蛇口の先には人がいる。人の思いが水道水を守っている。

遠い未来の東京にも、今と同じ水道水を残したいと強く思った。